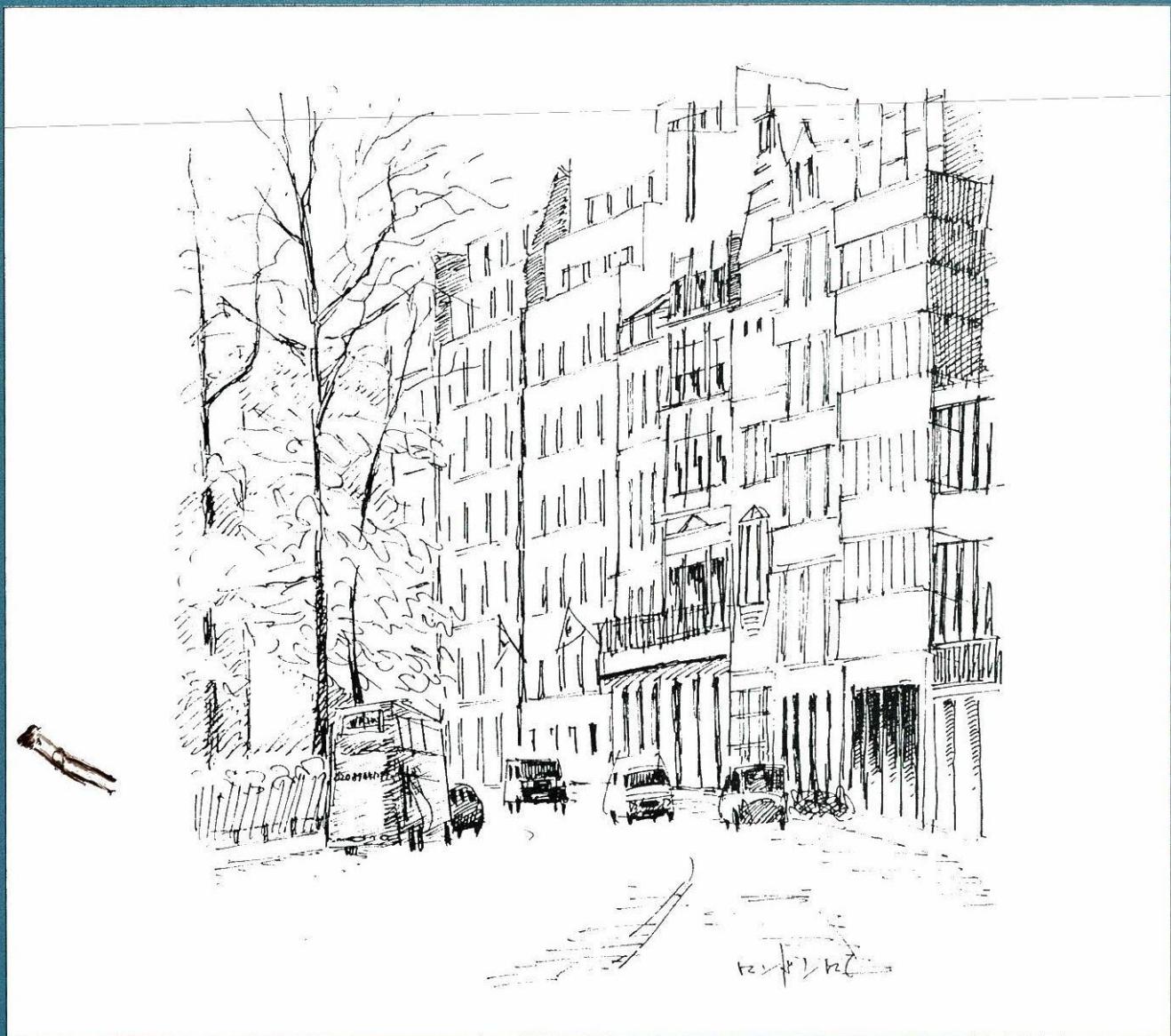


やまざき文化

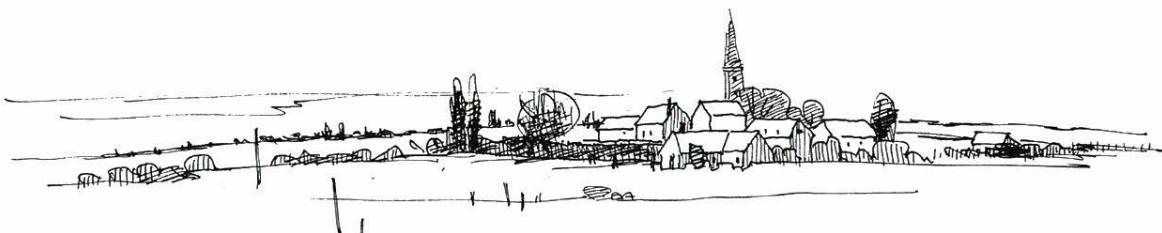
’02-2 * No. 21



山崎町文化協会

「やまさき文化」の発刊に当つて

山崎町文化協会会長 壱阪 壽



「やまさき文化」二十一号が発刊されることになりました。それには多くの人々の御支援と、此の小冊誌を編集して下さる委員の皆様の大変な御尽力のおかげであると、心から感謝せざるはおられません。

今時代は大きく動いていますが、地域における文化活動の面でも色々とその影響を受けています。地域に於ける文化活動は従来ともすると伝統的なものの伝承を重視とする活動でありましたが、時代の変化と共に少しづつではありますが変つてまいりました。

それは一つには地域社会が変化して従来になかった色々な課題が出現したことです。多消費型からいかに地球に優しい生活スタイルにするかといった点からも人々の文化に対する考え方又は活動のやり方にも変化が起こってまいりました。又マイカー時代に入りいかにして交通安全の地域を創るかといった問題等々を地域文化活動の中で避けて通ることは出来なくなってしまいました。

その結果として地域文化活動にもそういう色々な時代の変化を考慮せねばなりません。そしてそれと同時に地域文化の活動に対する期待は益々大きなものとなつてくるようになります。

「やまさき文化」が今年もやまさきの文化活動を刺激する役割を果すことを切望してやみません。

| ▽ 目 次 ▽ | やまさき文化の発刊に当つて | 壱阪 壽 |
|----------------|---------------|------|
| 奇しき出来ごと・ふる里に想う | 稻村 一郎 | 8 |
| 流す筏はさきまかせ | 松井 叔生 | 10 |
| 若人よ、世界を觀よう、識ろう | 山崎 智絵 | 12 |
| 短歌 | 三浦 ゆき | 14 |
| 俳句 | 安川英美子 | 16 |
| 民踊グループと共に | 谷口 幸三 | 16 |
| 雑感 | 宇原の獅子舞の太鼓 | 17 |
| 宇原の獅子舞の太鼓 | 志水 正信 | 17 |
| 波賀町観月会に参加して | 大部 正勝 | 17 |
| 『さとうきび畑』 | 塚田 美紀 | 18 |
| 山崎植物同好会の活動について | 久宗 丑雄 | 18 |
| 茶華道雑感 | 小川 登 | 19 |
| 河本敏夫先生を輓す | 田口 實 | 19 |
| 花(華) | 石野 和雄 | 20 |
| 離れて物を見る | 藤井 七代 | 20 |
| 高齢化社会を思うとき | 岸本 正理 | 20 |
| 錦鯉に魅せられて | 平松 幹司 | 21 |
| 山崎町の史跡めぐり | 衣笠弘一郎 | 21 |
| ギリシャに乾杯 | 正尾 実 | 22 |
| スーザー歌舞伎 | 松本 駿司 | 22 |
| 「諸葛孔明」について | 久保 正 | 23 |
| 私の文化活動 | 藤井 俊介 | 23 |
| 囲碁のすすめ | 藤村 清一 | 24 |
| 事務局だより | 松木 明洋 | 24 |
| 表紙題字 | 福岡 久藏 | 24 |
| 編集後記 | 荒木 正一 | 24 |

流す筏はさきまかせ

—雨情と山崎—

山崎文学会 浅田耕三

風々吹くな
しゃぼん玉 とばそ

生まれてすぐにこわれて消えてしまつたしゃぼん玉に、天逝したわが子を重ね合わせたというのであろうか。

ある朝、目覚めた布団の中で、ふとテレビをつけると講演会の録画を放映していた。

見たのは最後の三、四分ほどだったから、話の全体の流れもよくわからず、講師の名も覚えていないが、童謡「しゃぼん玉」とその作者野口雨情に関する話だった。何気なく聴いていると、家業を顧みず先祖伝來の財産を蕩尽して酒と詩作と放浪の旅にうつをぬかしている留守の間に、幼いわが子を病死させてしまった雨情の慚愧の念が「しゃぼん玉」に凝集している、という意味の話であった。

「しゃぼん玉」は今年六つになる孫が二つ三つのとき、寝かせるのに妻が時々うたつていて私の耳にも馴染んだ童謡である。

なるほど一見あどけないうたにも、作者のそんな悲しい思いがあつたのか、と私はひとしお感概を覚えた。そういうればこれもいつだつたかテレビで見たのだが、俳優の小沢昭一が、いつものあのちょっと人を食つた飄々ととほけた顔付きとはちがつて、ひどく真剣な表情で、この「しゃぼん玉」をうたつていたのを見た記憶がある。

これは雨情の作詩の裏のそんな事情もさる事ながら中山晋平の曲にも、人の胸を打つ哀調があるのかも知れない。

しゃぼん玉 消えた
とばずに 消えた
うまれてすぐに 消えた
こわれて 消えた

さて、わが町の民謡「山崎小唄」も野口雨情の詩で中山晋平の曲だ。旅館「菊水」の玄関には雨情自筆のこの小唄の扁額が架かっている。

昭和初年に雨情が山崎に来て作り、古くから町民に親しまれているうただが、雨情がいつ、どんな経緯で山崎へ来てこれを作ったのか、テレビを見たあと、ふと興味を覚え少し調べてみるとした。

旅館の方に訊いてみたが前述の額以外は何の記録も残っていないそうだし、当時の事情も何もきいていないという返事だった。その方面に詳しそうな方にも二、三たずねてみたが、やはり似たようなこたえしかかえってこなかつた。

そんならいっそと町立図書館を通して県の図書館に雨情関係の資料の借出しをたのんでみたところ、さすがに県は文献豊富ですぐに四、五冊の評論、伝記を送っていたみたい。

その一冊『定本野口雨情』(書簡集)にこんな葉書が掲載されていた。

○昭和七年六月二十四日消印(封緘葉書)

富山県新湊町にて野口英吉(雨情)
拝啓、上野駅では御厚情を感謝致します。安田青風氏より拙宅へあて、山崎小唄の作歌御下命の書状あり、(中略)予算は僅かしかないと記してあります、安田氏はいい人ですから予算は僅かでも結構ですと書状出しましたが、尚おたよりの御序には承知致しました旨お知らせおきをお願ひ致します。(下略)

東京市 権藤円立様

○昭和七年六月二十七日消印(葉書)

金沢にて 野口生

拝啓 富山県から山崎女学校へ行くことにしました。

急用の時は

兵庫県山崎町 山崎女学校

宛てに願ひます。

七月の二日か三日に帰ります。

東京市 中里通様

○昭和七年六月二十九日消印（葉書）

拝啓 二十八日にこちらへ参りました。七月三日の夕方ここを出発、四日の午後に東

京へ帰ります。急用は、女学校の安田青風氏氣付として願ひます。

兵庫県山崎町にて 野口生

東京市 野口祐孝様

○昭和七年六月三十日消印（葉書）

拝啓、帰京せずに富山県より山崎へ直行致しました。

作曲については何人に依頼するかは決定致さず、有

志者間には中山晋平氏にする考へらしく思はれます。安田青風氏もそれに同意されてを

ります。いづれ帰京の上申上げます。敬具

山崎町たからや旅館方 野口英吉

東京市 権藤円立様

これらの葉書によると、雨情を山崎に招き作詩を依頼したのは町内の何人かの有志だつたのだろうが、両者の橋渡しをしたのは、當時山崎女学校の先生だった安田青風氏だつたようだ。

青風氏は著名な歌人で、大正十四年から昭和十二年まで山崎女学校で教鞭を執られた方である。氏の影響で山崎歌壇は大いに興隆した。

山崎女学校在任中の十二年間に『春鳥』ほか五冊の歌集を出版されているが、佐和乃さんというご夫人も歌人で『鹿沢の家』を出されている。

雨情との親交の度合いは審らかでないが相当親しかったのだろう。六月二十四日富山県の新湊から出している雨情の葉書から二人の親しさが想像できる。

作詩の礼金はあまり出せないからと事前に雨情に断っているらしいのもおもしろい。

年譜によると雨情は、明治十五年茨城県磯原に生まれた。

明治四十年七月、二十六歳の雨情は恩師坪内逍遙の紹介で北海道に渡り、札幌の北鳴新聞に入社した。

たまたま同じように故郷の岩手県渋民村を出て北海道にわたり北門新報に入ってきた石川啄木と雨情は初めて出会う。その後わずか二ヶ月で雨情は北鳴新聞を退社し小樽新報へ移るが、啄木も同時に小樽新報へ入り、二人は職場で机を並べることになる。

しかし啄木は母と妻と女の子の赤ん坊を連れていて極貧の境遇にあった。それに、これは雨情に限らず、まわりに対する終生変わらぬたかりの体質であるが嵐山光三郎著『文人悪食』などによると、借金にかけては天才的な名手で、しかも一たん借りた金は

余談ながら、司馬遼太郎の『街道を行く』の第九巻「播磨国」を読んでいると西播州を取材する司馬さんの案内役として、この青風氏のご子息章生氏が龍野、山崎を司馬さんと二人で歩く場面が出てくる。

章生氏は山崎小学校の卒業生で、文中司馬さんは何気なくその人柄にふれ、実に素直で温かな章生氏の様子を紹介している。

話は変わるが、雨情の子息の存弥（のぶや）氏が父の遺稿の整理中、昭和七年九月十日付の『山崎新聞』を見つけられたらしく、その記事が『野口雨情詩と民謡の旅』（東達人著）の中に載っているので少し長いが紹介する。

全く返す意志がなかつたという啄木は、雨情にも金銭上の面倒を随分かけたらしい。

食いつめて故郷を出てきていながら、なおも放蕩浪費癖のおさまらぬ啄木は、頻繁に

紅燈の巷に雨情を誘い出しては、支払いはすべて雨情に受けもたせた。

雨情は零落していたとはいえ磯原の故郷に帰れば山林田畠もまだたくさん残っていた

し、ヒロ夫人の実家も大金持ちだったから貧窮の啄木にはかなり同情を寄せていたようだ。

しかし青年啄木の客氣と過剰な自意識からやがて上司と部下の関係だった二人の間に確執が生じる。

その間の事情は啄木の日記にくわしく窺えるが万事鷹揚で人の好い雨情は自分の席を啄木に譲り、飄然として小樽をあとにし再び札幌に帰る。

一年間の北海道の記者生活は筆の立つ雨情にとってそれなりにたのしかったようだが、詩の方はこの間あまり伸びなかつたよう見え。

新聞記事を書くという実務の方に消耗して詩作というファンタスティックな作業には精力が回らなかつたのだろう。

名作曲家中山晋平とコンビを組んだ最初は、雨情の手紙によると、大正五年に「黄金虫」の草稿をもって雨情が作曲の依頼に晋平をたずねた時であった。

以来三十年間、二人のコンビは童謡、民謡、はやりうたを次々世に出した。

そして大正十年、

おれは河原の枯れすすき
同じお前も 枯れすすき

の「船頭小唄」が大ヒットした。

さらに「波浮の港」「紅屋の娘」「あの町この町」「雨降りお月さん」「証城寺の狸囃」など、いざれもヒットして雨情は次第に名士になつていった。

しかし雨情は有名になつても招かれればどこへでも気軽に出かけ、快くその地の小唄や民謡を作詩している。

兵庫県下では「山崎小唄」「宍粟民謡」「篠の丸の四季」のほか、「赤穂節」「宝塚ばやし」「出石小唄」「播磨港節」「豊岡小唄」「行李編み掛合ひ唄」「城崎温泉節」「香住漁歌」「柏原小唄」「港まつり」「高砂」「曾根小唄」がありそれ以外にも題のはつきりわからぬ「小野の神明さま火縄をくれる」と「北は小野町東は三木へ」の詩稿二篇が残つており、合わせて十七篇に及ぶ。

こんな調子で雨情が作詩と講演と揮毫の行脚を続けた地は北海道から沖縄まで日本全土に及んでいて、その健脚ぶりに驚かされる。

しかし、彼はテレビの講演にあつたような家庭を顧みず酒と旅に明け暮れた生活破滅型の芸術家とは正反対の人物だったらしい。その手紙を読むと、旅先からつる夫人（後妻）にきちんと送金し、思うように収入のない時はお詫びの手紙を書き送つて行

間にその苦衷焦燥を滲ませている。

律義な人物だったのだ。

先祖伝来の財産をなくしたのは、荷を満載した船が転覆するなどの不運に見舞われ、回漕業の事業に失敗した父君の野口量平氏の方で、雨情はその傾いた家運を何とか盛り返そうといろいろ奔走もしたらしい。

酒は好きだったようだ。そして酔うて興の赴くままに筆を走らせた時の詩の方が素直な心の表出があつてすぐれた作品になったといった。昭和二十年一月二十七日、自宅でつる夫人たち家族に見守られて息をひき取つた。享年六十四歳。

発病（中風）したのは昭和十八年二月だがその年の春には病躯をおして山陰の旅に出、秋には四国を歩いた。そしてこれが最後の旅となつた。命がけの、芭蕉風にいえば野ざらし覚悟の旅だったのである。漂泊詩人の、沸々とたぎる旅への憧憬と詩魂。前述の、兵庫県下だけで十七篇を残している多作ぶりも、旅をしたいための作詩行脚だったのかも知れない。

病を得て一年後の十九年一月、栃木県に疎開し、さらにその一年後に卒した。

若い頃に前夫人ヒロさんとの間にもうけた長女を病で死なせているが、そのかなしみが「しゃぼん玉」に凝結したとか、貧しかった頃、道端でふと黄金虫を見かけ、その名を羨んで、「黄金虫は金持ちだ」の「黄金虫」を作つたというのは、いざれも読者の勝手な想像で、「詩人の感覚はそんな単純即物的なものではない」と断言している雨情研究家もあれば、やはり詩を作る際の作者の想念の中に、かつて身に刻み込まれた悲哀がこめられていたろうと見る評論家もいる。

ともあれ、現実の雨情は、怒った顔を見せるようなことはほとんどなく、まことに温厚柔軟な紳士で、いつももの静かに盃をかたむけ、詩作に耽つていたという。たばこも好きだった。

相手が有名無名、年齢の老若にかかわらず、おだやかな口元に煙草をくゆらせながら丁重な物腰と言葉づかいで接し、その折目正しさは自分の子供たちにさえ同じだったとう。

ここまで書いた時、私は町の老人大学の行事に参加した。

その車中で山崎文化協会の河本雅視さんと隣り合った。ふと、野口雨情について書いていると話したら河本さんは即座に「長川耕一さんが『むかし懐かしい山崎の民謡を唄い語り継ぐ』という、なかなか洒落た冊子を出され、それに雨情の写真が掲載されるとで」といわれた。

長川さんは文化協会の副会長だが、迂闊者の私はその冊子の発行も全く知らなかつた。早速社会教育課へ行って、大歳神社千年藤の見事な花を表紙絵にしたその冊子をもらつてきた。

なるほど菊水の前でむき卵のようにつるつとした温顔チョビ髭の雨情が、何人もの芸者に取り巻かれて写っている写真に添えて「山崎民謡のはじまり」と「野口雨情さんと山崎」と題する二つの文章が載つている。

「山崎民謡のはじまり」は先述した昭和七年九月十日発行の「山崎新聞」の記事の紹介であるが、あとの方は、当時日本中に民謡づくりがブームになつていて影響で山崎にも民謡を、という計画が持ち上がり高名な雨情を招いたいきさつが記されている。直接依頼したのは安田青風氏であったのだろうが、そのお膳立てをしたのは幹部の安井金三郎さん、前野善治郎さんを中心とした町の商工会の奔走だったようだ。安井さんのご親戚で大阪市会議員であった菅野村出身の庄健一氏のお世話もあつたらしい。

雨情は商工会の役員の案内で、最上山や揖保川河畔を歩き、安富町の千年屋、鹿ヶ壺、一宮町の伊和神社、波賀町の赤西、音水渓谷、南光町の瑠璃寺などをタクシーで見て回り、ほぼ一週間をかけて「山崎小唄」七節、「宍粟民謡」五節、「篠の丸の四季」四節を作詩した。

「山崎小唄」「宍粟民謡」は文化団体「新潮会」の創立四十周年記念として文化会館の庭園に歌碑が建立されている。「宍粟民謡」は雨情の自筆「山崎小唄」は書家の田内龍陽さんの筆である。

「山崎小唄」の初節

ハーエ水にせかせてヨーアリヤサー
水にせかせて 十二ン波よ

ヨイヨイ

流す筏は サッテモナ
流す筏は さきまかせ
あれは山崎 最上山
鐘が鳴ります 日に三度
ありや 日に三度

「宍粟民謡」の初節

ハーエ山は音水ヨーアリヤサー
山は音水赤西は谷よ

ヨイヨイ

朝な夕なに サッテモナ

朝な夕なに雲が立つ

ホンニそудそud雲が立つ

播州宍粟は山の国
アリヤ山の国

その頃は揖保川の上流波賀町から筏が流れ下つていたし、最上山では日に三度のどかに鐘が鳴っていたのである。

私は二十四、五の頃、ふとしたことでSさんという当時六十ぐらいの人と知り合いになり、その軽妙磊落なお人柄と話のおもしろさに惹かれて時々酒のお相手をつとめ、懐旧談を拝聴していた。昭和初年頃は、山林関係の仕事でかなり羽振りもよかつたらしいSさんは、働くのも人一倍だったが、なかなかの蕩児でもあったようだ。

そのSさんによると、山崎というこんな山間の町にさえ、その頃はたくさんの芸者がいて、遊興費も私が話をきいた、昭和三十年代初頭と比べると当然ながら嘘のように安く、近郊にその名をとどろかせた「地獄谷」という少々おどろおどろしい名の歓楽街は、

夜ともなると弦歌嬌声がさんざめいていたという。

昭和七年といえ、日本は不況にあえぎ、一月に上海事変、五月には五・一五事件とファシズムの暗い影が次第にしのびよってくる時期だが、それでもまだ大正リベラリズムの名残りをとどめるよき時代だった。

新緑したたる音水赤西渓谷を歩き、瑠璃寺の参道に澄んだ音色を響かせる河鹿の声を聴いて宿に帰り、もの憂い初夏のたそがれどきを、雨情は歌の想に没入していたのであろうか。それとも、脇息に寄り、最上山から吹き下ろす微風に頬をなぶられながら盃をかたむけ、詩句を推敲していたのか。場所は「たからや」の二階。

けだし、のどかな時代の、漂泊詩人の、何とも羨しいほどの生きざまではある。「流す筏はさきまかせ」の文句に、旅にあけくれてきたおのれの人生を重ね合わせたのだろう。

三、秋の紅葉は篠の丸

織るやあかねの唐錦
色とりどりに美しく
屋根の木蔭の間より
誰が見るやら恥かしや

四、冬は雪冴え篠の丸

積り積りていつしかに
見渡す限り銀世界
まつ身に長し寒き夜や

解けてくる日はいつじややら

安井氏宅には雨情自筆の「篠の丸の四季」の屏風があり、その写真を私は長川さんに見せていただいた。いかにも詩人らしい洒脱風雅な書体で、なかなかの能書家である。

篠の丸は山崎町市街地のすぐ北側の標高三百八十メートルの山で、頂上には篠の丸城の遺構がある。赤松円心の次男貞範（三男則祐とも伝えられる）が、長水城の砦として築いたが、天正八年四月秀吉に攻められて落城した長水城と運命を共にした。

この「篠の丸の四季」を左に掲げて拙文のしめくくりとしたい。

一、春のあけぼの篠の丸

桜の花もたなびける

霞の中にはころびて

松や桧の枝蔭に^{さすりかわ}疊交す鶯や

人の心も長閑なり

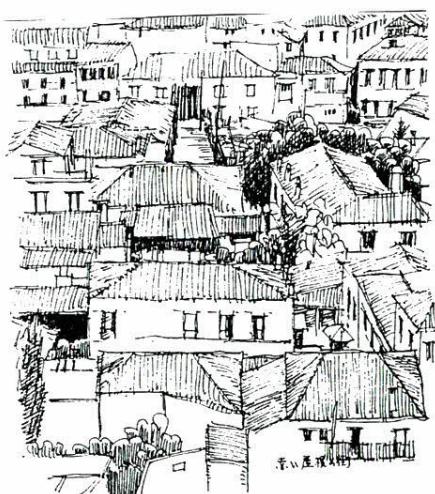
二、夏は青葉の篠の丸

風もすずしく山々を

啼いて空ゆくほととぎす

誰にたよりを聞かかずやら

いまを盛りの花つづじ



《参考》

「野口雨情の生涯」

長久保源藏著

暁印書館

「定本 野口雨情補巻」

野口雨情

未来社

「雨情 詩と民謡の旅」

東 達人

踏青社

「野口雨情」

平輪光三

日本図書センター

以上

若人よ、世界を観よう、識ろう

(株)日立メディコ勤務

稻村一郎

(山崎町鹿沢出身)

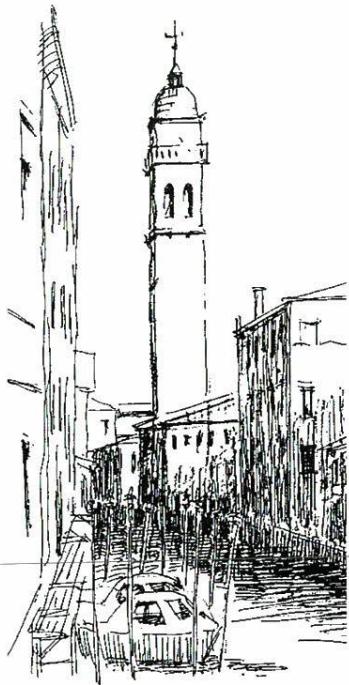
朝夕に最上山を望み、夏には揖保川に遊んだ山紫水明の山崎、其の自然の懷は我々を守る振り籠、其處で若く多感な時期、多くの友人達と安心して過ごした日々を懐かしく想うにつけ、郷里に対する感謝の念で一杯になります。が、罰当たりな話、此の格好の振り籠も、成人し身体に若々しいエネルギーが充ちるにつれ何とも窮屈な場所に思え、何時とはなしに、もっと広い世界を観たいと言う欲求が潜在的に沸々と高まりました。其の衝動は、こじんまり閉ざされた安全環境故に余計強い反発力として高まつたものと思われます。これが後々、自分の意志決定に影響し、世界を観たい、世界を識り度いと言ふ強い願望となり、タイミング的に、世界各地への製品や技術輸出振興策を探る会社方針との関連で、幸運にも満たされる結果になりました。其の第一歩は、ソ連を除くアメリカを含む全歐州・中近東地区への販路開拓拠点の設立で、当時、外国は勿論、飛行機に乗るのも初めて、外国语会話（当時ドイツは英語は殆ど通じません）も全くの素人の儘暫定的に、東西冷戦の接点真っ直中のベルリンに、先ず住む場所として一人辿り着いたのが発端でした。言葉や生活習慣、異常な東西ベルリン二分割環境等、毎日がカルチャーショックで、今思い出しても恥ずかしい失敗談、恐い話、苦労話は山積みです。この種の厳しい洗礼を数年間体験、其れ以降は言語の習得要領や生活習慣も容易に感じられ、訪問し滞在した数多くの国々では、比較的容易に現地の人と粗漏無く交流出来る様になりました。以下はこれらの体験から得た教訓を、今後山崎から輩出するであろう世界志向の若い方々の参考迄に書かせて頂きます。

日本と違う海外には、日本人には解りにくい人間価値観が在ります。ただでも不満の多い此の世の中、ましてや異文化の国々では想像に難くありません。が、人間の美しい面を先ず見るように努力しましよう。前記の如く当時のベルリンは二分化・東西冷戦の影響で抑圧氣分一杯、其の上特に冬は十時頃夜が明け十五時には日の暮れる零下二十度の厳しい自然で、皆ムツツリ押し黙って、何か有れば言い争いが始まる如き雰囲気です。私は唯一一人で大きなテリトリーを担当していたので、一旦ベルリンから飛び

出して次々とトラサンの行商みたいに国々を回り、一ヶ月程家を不在にしましたが、小

生より一年後に到着した家族（家内、小一、幼稚園児の子供二人）は早速自分達だけでの生活を余儀なくされました。彼等が或る寒い冬の日、市内バスで買い物に出掛け、棒に付けた風船を店で買っての帰路、持つて居た風船がバスに乗る際、子供の不注意で手から放れ、バスの後方に風で飛ばされたが、家内は他の乗客の手前、風船を断念させて乗車、が、これがドイツ人乗客には気に食わない。運転手が、取ってこい！と入口近くの若いドイツ人兄さんに。彼、バスを飛び出し寒風の中風船を追っかけた。風船は突風で遠くへと転がって逃げる。失敗し諦めておしゃバスに戻った若者、乗客全員の鞆躰を買う事しきり、が、兎も角、乗客全員風船を諦めバス発車。ところがバスの起こす乱氣流で風船が再度バス後方に寄つて来た。バス乗客は此れを見て、バスを止めろ！と運転手に。先ほどの兄さんが再度勢い良く飛び出す。風船、再度突風で転がつて逃げる。此れの繰り返し三回、此れを見て居た郵便配達夫が自転車で風船をキャッチして、バスの窓越しに運転手に渡し、子供の手に。車内明るい拍手。当時、東洋人はベルリンには希少であった。誰が夕刻の慌ただしい時刻、何処の東洋の国から来たのか解らない、ドイツ語も喋れない家族のたかが風船一個、大切に考えるでしょうか？出張から帰宅して此れを聞き、往時のドイツ人の善意と愛のあり方が懐気に解つた次第。此の様に日本人にも理解は出来るが實際には？という事が多いのです。此れ以外にも現地の新聞で日本の事を読むと、日本はどうなつて居るのかな？と思える記事が多く、一方、周知している海外事情を記事で読むと理解不足と誤解が多々目に付きます。例えば現地で著名な歌手は日本では無名だつたり、或いは其の逆も多々。大抵の国人々は愛国心を明確に持つてゐるのに、日本人には其れが極めて希薄。最近は九月十一日のニューヨーク・テロの報道がTV、新聞で再々報道されます。又、此れに対応する日本政府の姿勢や有識者先生方の意見等見聞きする機会が多いですが、本当に現地の状況を周知していないと思われる意見も多く、やはり、日本流色眼鏡でしか現地を見て居ないので不安になります。最近では、日本人観光客が大抵の外国で、或いは、こんな所にも？と思われる国々にも屯して居る姿に出会います。此れ自体は大変喜ばしい事ですが、もつと多くを觀ると同時に、もっと現地を識る努力即ち、彼等の生活を垣間見、彼等の国での考え方を理解して貰い度いのです。この為には著名な建物、名所旧跡、美しい自然、美味しいエスニック料理に加えて、是非現地の人々の生活実態、生活感、価値観などにも注意深く目を配つて理解して頂き度いものです。一步突っ込んで識ろうとするとどうし

ても言葉の障壁があります。但し、外国語を巧く喋ろうという思いを、手振りでも絵を描いても良いので何とか真剣にコミュニケーションしようという考えに変えれば、道は自ずと開けるものです。
若い山崎の皆さん、勇気を持って積極的に世界を識る努力をして下さい。さすれば、あなた方が住む山間の山崎が如何に素晴らしい文化的な町かが再認識される筈です。



著者のプロフィール

- 1959年 山崎高校卒業、大阪大学理学部物理学科入学
1963年 同大学卒業、日立製作所入社、同社茂原工場にて電子管設計製造検査に従事
1970年 以降ドイツ駐在を始めとし、一貫して海外技術業務に従事、長短期海外出張滞在頻繁
1985年 (㈱)日立メディコに移籍、医療機器設計業務等を経て1990年以後、海外サービス業務、東南アジアを中心に渡航頻繁、現在に至る

第二十二回春の芸能祭バーカ内

日 時 平成十四年五月十九日（日）

午前十時から午後三時三十分まで

場 所 サンホールやまさき（山崎文化会館）

主 催 山崎町文化協会・山崎文化会館

後 援 神戸新聞社・山崎町教育委員会

会員の日頃の練習の成果を、ぜひご覧くださいますよう、
ご案内申しあげます。

参加部門 山崎詩舞道連盟 山崎謡曲同好会

山崎郷土芸能保存会 山崎邦楽邦舞研究会
さつき民踊グループ 播州山崎太鼓
パンブー・ファイブ 山崎町老人大学

奇しき出来ごと・ふる里に想う

画家

松井叔生

(山崎町出身)

二〇〇一年も後半に入り暑い日が続いた夏の終りの九月、二百二十日に台風十一号が前代未聞の鎌倉に上陸との報道に福村ヶ崎に寄せる高波がTV画面に映し出されていた。午后になつて風雨もおさまり、私は日本美術家連盟の委員会があり東京銀座の美術家会館に出かけていった。すでに銀座通りは台風一過のさわやかな日射しにかわり高層ビルを赤く染めた夕映えが美しく輝いて見えた。

夜六時からの会議も夏休み明けで議題も山積していて、先ず木乃木坂に平成十七年度完成予定のナショナル・ギャラリーの設計プランなどの報告（設計 黒川紀章氏）、会員の訴報、病気見舞いから美術家の著作権問題、国際美術連盟（IAA）の総会が二〇〇二年ドイツのハイデルベルグで開催されることになり、日本代表の委員を選出など、八時に会議を終え鎌倉の自宅に帰ったのが十時すぎだった。

テレビに米国での同時多発テロの影像が流れさせて、ニューヨークのツインタワー貿易センターに二機の旅客機が相次いで激突、炎上し崩落するシーン、まさに阿鼻叫喚の光景である。続いてワシントンのペンタゴンにも激突するなど、アメリカの威信を大きく傷つけた悪夢を見る驚愕の事件、大惨事のニュースに集中する一日であった。

二十一世紀初頭まさしく歴史にきざまれた、この日こそ奇しくも私の六十七才の誕生日だった。

例年この季節は私共、美術の秋、十月上野で開催する二紀展にむけて制作に熱中する時期もある。

今年は七月にニューヨークに赴任していった友人の招きで彼のところを起点に、ワシントンやボストンなど訪れるはずであったのがそれもついになってしまったのである。友人の安否を気づかっていたところ、事件の少し前にテロのうわさがあつて、オフィスもコネチカットの方に移転していく無事だった由であつたが、まことに今年の九月十一日は印象深く今日まで尾を引いているのである。



作家 西木正明氏 柴田練三郎賞 受賞式（帝国ホテルにて）

私は山崎高校を昭和二十八年に卒業、その年、町の青年団に誘われ、上ノ町から最上山に続く小高いところに、記念の植樹をした記憶があり懐かしく想い出している。その頃山崎から神戸の小磯良平先生のところに通いデッサンをみて貰い、翌年春に上京、武蔵野美術学校に進み在学中に二紀展に入選して、二紀会の総師宮本三郎先生に認められたのも幸運であった。その間苦学の時代はあつたが、東京での生活は一路邁進、約八年間、都会での画業にいそしむことが出来た。そして結婚もし、念願のアトリエを鎌倉に構えて約三十年の歳月が流れた。

故郷山崎での幼少期から育んでくれた情操は作風にも氣質にもあらわれ、郷里に似た鎌倉の風土、自然の多い緑の中での作画生活が私に合い制作も活氣づいていたのである。

その頃、現山崎町長の白谷敏明氏と役場の企画課の西川千寿氏とが、PTAの依頼で山崎小学校の図書館を飾る絵をと鎌倉に訪ねてこられたのが切掛けとなり、学生時代から親しくして頂いていた和田疎人さんや神戸新聞の藤村清一さんなど、多くの方々の声援を頂いていた、山崎文化会館の縞帳の原画を描かせて頂いたり、ホールに飾る絵など新潮会、文化協会のみなさんの御支援を頂いていたことなどその後に、西兵庫信用金庫六階ホールでの神戸新聞連載小説の挿絵原画展と私の画業の一端を陳べての郷里での個展、菊水での懇親会に、作家の西木正明氏を招聘してくださつたことなど忘れることの出来ない私の最大のイベント

であったと心より感謝しているのである。西木正明氏とはその後も「週刊新潮」や「オール読物」など挿絵を描かせて貰っているその間、氏は新田次郎賞と昨年度の柴田練三郎賞など受賞していて、新年号より「小説すばる」に連載小説の挿絵を担当することになりこの原稿の最中に出版社に画を渡したのである。半年ほど続く様です。

今年の二紀展出品作「夏の日の午後」百五十号の大作も、自然・人間の生命力を喚起する緑の色彩を象徴的に人間の季節感をテーマにして描き続けている作品である。

近年鎌倉も宅地造成など自然破壊が進み、緑が少なくなり「鎌倉の自然を守る運動」に心ある市民が立ちあがり、在住の学者、芸術家、文化人によるNPO、トラスト運動に私も作家の井上ひさし氏らと参加、運動を続けている。

つい先日十一月の中旬に紅葉も映える鎌倉へ郷里山崎中学の同級の有志十三名、それぞ山崎在住の友、阪神方面で事業を営む学友たちがNHKの「北條時宗」の放映を機に、ぜひ鎌倉でクラス会をと、横浜、東京と一泊三日の旅を計画してくれ、円覚寺の向いの山、梶原に住む拙宅にも訪ねてくれた。宿舎は由比ヶ浜から太平洋一望の松林の中にある瀟洒な処で一夜、童心に還り、懐かしい山崎弁で語り談笑の楽しい一日だった。同級生のほとんどが幼稚園から中学迄山崎育ち、私にとって懐かしい友と語り合い、明日への英気を養う絶好の機会を得たよろこびは、何ものにも増して有難く、ふる里山崎への深い絆と言える。

著者のプロフィール

1934年生

洋画家（鎌倉市在住）山崎町出身

社団法人 二紀会理事（作家活動）

” 日本美術家連盟洋画部委員

” 全日本学生美術会理事

日刊紙（神戸新聞など）七社連合連載小説挿絵担当

週刊誌 週刊新潮など挿絵担当

月刊誌 文芸春秋、オール讀物、小説新潮、小説すばる（集英社）など

主に作家西木正明氏とコンビで挿絵、装丁担当。

全国主要都市で個展開催、1999年神戸そごうにて自選展、日動画廊（東京）をメインに活動

又NPO、トラスト運動、鎌倉の自然を守る会理事などで活動中。

尚 2002年新年号「小説すばる」西木正明氏作「一場の夢・ひばりと三代目」連載小説挿絵担当



2001年 第55回記念二紀展 「夏の日の午後」(150号)

短歌

斯く確實に齡は過ぎむ その一 風立ちて

山崎歌人協会 山崎智絵

風立ちて心に鈴の鳴る日なり祭りに
履きしこっぽりの鈴

九月も中旬になると、静かな夕日が染
みわたるような夕暮れがある。そんな日
の翌朝は、深い蒼空に掃いたような巻雲
が山の端にかかり、稻田を渡る風が昨日
とは違う速さで過ぎてゆく。

ああ一秋だなあーと心疼く日、私の中
で遠い日の屋台太鼓が聴こえ、秋祭りに
履いたこっぽり下駄の鈴が鳴る。

「正月三日に盆二日、祭りは一日せがない」
と唄われた昭和一桁の頃
は村人にとって祭りは、かけがえのない
愉しい一日であつた。

祭りには親類縁者を招き、甘酒赤飯鯖
鮓などお定まりの御馳走でもてなす。十
月に入ると屋台の稽古が始まり、その太
鼓の音をききながら主婦たちは甘酒を仕
込み、鯖の骨をぬき、祭りの用意を始め
る。こうした日を重ねながら祭りへの気
分は高揚していったであろう。

最近は、テレビや写真画報等で有名な
祭りの屋台も観ることが出来る。あの豪

巻きを着けたKさんが居た。総指揮をと
る此の人は担ぎ手にすぐそれと見えるよ
うに色彩をえていたのである。

当日、村を練り歩いた屋台は産土の森
に向うのだが、此處に一番の難所とされ
る九十二段の急な石段を登らねばならな
い。此処に来て今までの荒々しい練りも
掛け声も静かになり、乗り子の打つ太鼓
とKさんの吹く横笛だけを頼りに、七十

人の黒足袋は一段一段と踏みしめながら
登ってゆく。此の時、変声期前の少年の
声は高く澄み、囃子言葉は森の木靈を呼
んで辺りを荘厳にするのであつた。

境内での練りは荒々しく隅から隅へ走
は赤い垂れ幕を真中でしぶり上げそこか
ら乗り子の顔や腕が見えたりした。

乗り子は氏子の男子が小学六年になる
と新乗り子として屋台に乗り続けて二年
これを努めた。華やかな友禅の着物の袖
を赤いしごきの襷でたくし上げ、後で結
んで高欄の外に垂らし、太鼓を打つ度に
その襷がゆれて少年を涼々しく見せた。

それを担ぐ七十人の若者は、白の丸首

シャツに白ネルの腰巻きを着け、黒の兵

児帶を結び黒足袋を履いていた。鉢巻き
は豆しばりであったか?、こう書いてき
て、まるで時代劇だと少し可笑しなつ
たが、黑白で統一したことで若者達の躍
心をほぐすように哀調を帶びて聴こえる。

私はよくここで涙ぐんだ。
そうした黑白の中に、一人ブルーの腰
巻きのKさんは當時消防団

長で祭りの指揮をとっていた。右手に垂
を持って行く手を示し、笛を吹いて動作
を伝え、横笛で雅を添えた。どこに居て
もその存在は明らかで何時も先頭にあつ
て人を思うままに動かした。そのとき正
にKさんはスターであった。女性は英雄
に憧れるというが、私は七歳にしてKさ
んに憧れた。父の顔を知らぬ私は父の姿
を重ねて見ていたのである。

小学四年の時に日中事変が始まり屋台
の記憶もここでとぎれる。終戦後しばら
く復活するが、全く見られなくなつても
う三十年余りになるだろうか。

今年の秋祭りの二日後、何年ぶりかに
産土の境内に立つと人の気配はなく土は
白く乾いていた。「回しましよう」と少
年の声「まわれまわれ」と若者らの声、
七十年近くも前の声が私の中で生き活き
とお祭りをしていた。ふと誰かに呼ばれ
ふり向くと樹木を鳴らして森の奥に消え
棒を交互に放り上げ受け止める。これら
の動作は小気味よく力強い掛け声と共に
繰り返される。だが一人でも遅速を誤れば
大事故にもつながる技であった。

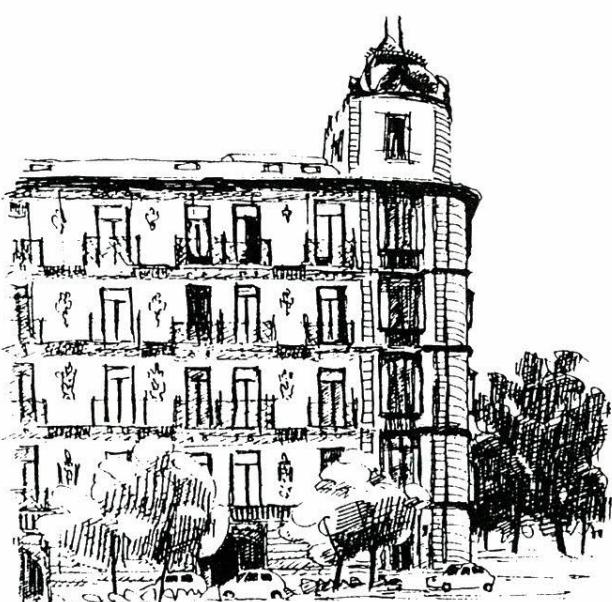
そんな息づまるような「動」から「静」
に移るひととき、今まで消されがちであつ
た少年の囃す声は高く通り、張りつめた
心をほぐすように哀調を帶びて聴こえる。
私も風になるのかなあーと思い、振り
返って見上げると、森の中で風が騒いでいた。
風は愉しそうに見えた。

朱倫句会詠草

| | | | |
|-----------------|--------------|-----------------|-------|
| 朝寒し鏡の中から笑みもどる | 監 千恵 | 菜の花の黄のかたまりを車窓より | 和田千代子 |
| 圃場整備終わりて植えし青田かな | 木村今日子 | 大寺に小さき座禅蟬時雨 | 芦田 八重 |
| おしまれて桜の役目や散ることも | 藤井 弥生 | 踊唄心はずみし目は遠く | 秋久 光子 |
| 大早一握の砂こぼれ落つ | 離 蒲公英 | 露の世の頼り頼られ老二人 | 千里 |
| 時雨して地球を走る戦の予感 | 吉田 弘子 | 若葉風一轍電車揺れて来る | 石野 光栄 |
| 明日逢えるときめき胸に返り花 | 千種 洋子 | いち早く更衣して花時計 | 岸野 昭三 |
| 寒昂宇宙の一滴耀ける | 三浦 ゆき | 魚干さる漁港の匂ひ春めける | 小畠 煙風 |
| 今日からは蠟梅色の日差しかな | 井口 洋子 | 落椿掃かで置くのも庭の景 | 高野 煙風 |
| 辛夷散る来世はきっと人ならむ | 津山 法子 | 嵐の中漁船行き交ひ島長閑 | 下村 君子 |
| 陽の入りを見届けている冬の月 | 進藤 千寿 | 峠の里老ばかりなる溝凌へ | 杉山美保子 |
| 霧ほどけ富士の樹海の神かくし | 小嶋 弥生 | 長閑さや物売りの声長ながと | 田中 良子 |
| やせ馬に雲流れ来て初日の出 | 鈴木 亮 | 点滴に腕を預けて遠花火 | 鳥羽チエノ |
| 蝶二つ縋れて青き塵となる | 岸野 昭三 | 日もすがら風と語りて吊柿 | 永井とみ代 |
| 梅日和つぶやきさうな石仏 | 梅日和つぶやきさうな石仏 | 淀みなく光る川面や春めける | 福田 泊水 |

青嶺句会詠草

蓬餅色の濃ゆきが鄙めきて
類なづる野づらの風も春めくや
淀みなく光る川面や春めける
和田千代子



マトリトロ

民踊グループと共に

さつき民踊グループ

安川英美子

月日の経つのは早いものでさつき民踊グループに入れていただき四年目が過ぎました。その間民踊グループのかわいい子供さん達も大きくなられ、部活動、学業が忙しくなる中、時間を作っては大人達と一緒にお稽古に励まれ、発表会、ボランティア活動に取り組み共に熱心に活動され、たのもしい限りです。

五月の春の芸能祭、秋のふれあい文化祭には新曲をそれぞれみんな一生懸命覚え、二週間前のリハーサルには舞台で稽古に励みます。そして年間を通じて依頼があれば十回前後各養老施設等へ踊りのボランティアで慰問し、楽しく交流をしています。また慰问先でボランティアをしていて真剣に見てくださり、拍手をもらったり時はありがたく胸が一杯になります。誕生会等に招かれ楽しみに待っていてくださいることを思う時一層勉強してさらに向ふことへの意欲も湧いてきます。

人生の半分を過ぎ毎日決まることの繰り返しでは変化がない為、週一回のお稽古を通じて生活していく上で、生涯樂

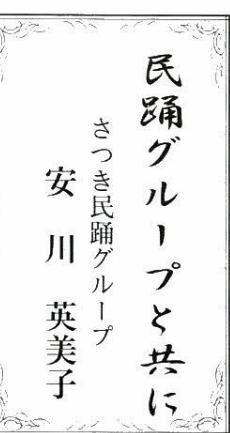
しみ、喜び納得することで充実感を持ち続けたいと思っております。

私事ですが春ごろより子供も独立し、四人の孫にも恵まれ、私の心の隅にやれやれという気持ちがあつた為か体調をくずしました。先生やグループの先輩、お仲間達の暖かいご理解があつた為にこの半年間休むことなくお稽古を続けられたことに感謝しております。

これからも色々なことに遭遇すると思いますが、趣味を同じくする仲間に支えられ、また家族の協力を得て、元気に楽しくおられ、建物にも勿論そういったものに励みたいと願っております。

私のことで申し訳ございませんが、私は住宅資材の販売を業としておりまして、いろんな方々と接し、自然志向の人が多くおられ、建物にも勿論そういうもの

うな問題にいち早く取り組んできております。ヨーロッパの中でも、環境先進国と呼ばれるドイツ。地球環境や地域環境、そして人に対する負荷をかけず、自然と



雑感

平成会

谷口幸三

うな問題にいち早く取り組んできております。ヨーロッパの中でも、環境先進国と呼ばれるドイツ。地球環境や地域環境、そして人に対する負荷をかけず、自然との共生を目指す環境行政、環境社会問題として政治的な課題として取り扱っています。

自然のエネルギーに満ち溢れている温暖な中に育った私たちと違つて自然の危うさを肌で知つてゐるからだらうと思われます。

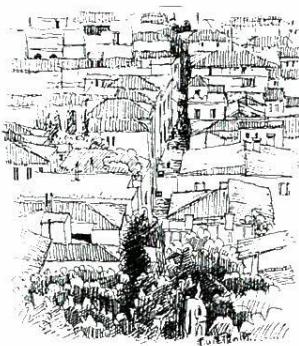
今、野放図な経済性や利便性を優先させた社会を変えていく必要があります。

日本は、やっと今動き始めたところだと思います。

最後に、平成会発足十三年、三十名の仲間とこの一年、諸々の行事に参加ご協力を頂きありがとうございました。これは利便性、経済性、効率性を追い求めたからに違ひないと思います。

あと数十年で私たちのこの地球が抜き差しならない状態を迎えるだろうといわれています。やっとここに来て自然の素材に興味を持つ契機になつたことは大変いいことだと思います。

しかし、戦後五十余年の経済的、物資的豊かさを経験してしまった私たちがこれからどう生きいくか難しい問題があります。



宇原の獅子舞の太鼓

山崎町郷土芸能保存会
志水正信

「近世大坂の太鼓職人」という本によれば、渡邊村は西日本の皮革の集散地であり、元和年間に皮革商を許可された十二軒の問屋があつたと書いてあります。

万治三年といふと、どんな年だったのでしょうか。西暦でいうと一六六〇年で徳川幕府でいうと四代将軍の時代ですが、宇原の獅子舞の太鼓がその万治三年につけられた事が判明しました。

実は、平成十二年度の文化庁事業の伝統文化団体活動基盤整備で太鼓の修理をする事が認められ、網干の太鼓屋さんに修理を依頼していたところ、その太鼓屋さんから、太鼓の胴の内側にこんな事が書いてあつたと写真を頂き、調べてみると、三百四十年前につくられた事が判明しました。

「銘」は不鮮明な個所もありましたが、判読しますと次のようです。

『万治三年　ネノ十二月廿六日
此の太鼓ハリ替
　　榎木大坂道頓堀
　　渡邊村河内屋吉兵衛』



どういう経路でこの太鼓が宇原にあるのか全く不明ですが、現美にあるのです。

太鼓の皮は十年~二十年くらいの周期で張り替えをするのが普通だそうですが、

この太鼓は昭和十年に張り替えており、

実際に七十年振りです。その時は前記の胴内の記載に気が付かなかつたのでしょう。太鼓の胴内に「銘」が残っているものは、

作つた人が業界でも棟梁クラスの人物だといわれています。

胴の径は尺二寸、胴長は尺五寸で、材質は櫻、内部は「チヨウナ」で一打一打

えぐり取り作られ、皮は黒色のカシュー

ウルシ塗であり、もとは文様が書いてあつたのかもしれません。

ここで太鼓談義をしようと思いませんが、三百四十年前の作者の技が、この太鼓に今も息づいている事がすばらしいと

思ひ、私は立派な文化財だと信じています。大切に取扱い、これから百年も二百年も澄んだよい音を出し、宇原の獅子舞を盛り上げてほしいと願っています。

「銘」は不鮮明な個所もありましたが、判読しますと次のようです。

『万治三年　ネノ十二月廿六日
此の太鼓ハリ替
　　榎木大坂道頓堀
　　渡邊村河内屋吉兵衛』

波賀町観月会に参加して

バンドーファイブ 大部正勝

たしかお盆前の練習会の夜であったと

思う。波賀町教育委員会より「今年の九月に開催される波賀町主催の観月会の演奏会にバンドーファイブに参加してもらえないか」との打診があるので、

どうだろうかとの話が出た。

バンドを結成して約七年、町内での演

奏会は、文化会館で催される芸能祭や、

町内の老人ホーム等への慰問演奏会など

と、経験はあるものの、町外での演奏会は初めてのことですので一度は躊躇しま

したが、そこは全員心臓に毛の生えたよ

うな恥知らずで、出たがりの男たちばかり

の集まりですので、一も二もなく出演

することとで承諾の返事をしてもらうこと

としました。

数あるレパートリー(?)の中で、ま

ず、尾島と大部と石橋は個人の持ち曲の

独奏を、そして全員が曲の演奏の中でメロディーやアドリブでそれぞれ自分の得意の楽器の実力を披露しようと曲目の選択をし、また、恥をかかないようよく手慣れた曲を入れようと話し合い、おなじみの「オリーブの首飾り」「竹田の子守唄」「コンドルは飛んで行く」と新たに増田のパークッションをメインに編曲したジャズナンバーで「キヤラバン」と決定しました。練習期間は約二ヶ月、メンバー全員仕事の時間の調整を行ひな

がら練習をかねました。

九月二十九日午後七時三十分よいよ

本番です。会場は、波賀町

市民センター

屋外演奏会場



で、隣の館ではお茶席ももうけられ、ステージ横の広場にはテーブルの上にススキが飾られ、お月見だんごとお酒も用意されました。

そこから少し目を上げると山の中腹に波賀城がライトアップされて暗闇に浮かび上がり、中天には秋の満月がこうこうと照り輝いていて、夜の会場の演出効果は本当にすばらしく感激的なものでした。

当日の天候は関係者の方の話によりますと「今回で十数回目の観月会ですが夜がこんなに暖かくて、満月がはっきりと見えたのは大変珍しい夜でした。いつも

曇りか時雨に泣かされています。」とのことです。

そんなこんなで、大きなミスもなく初めての町外演奏会は、無事にその練習の成果を披露することができます。

あすからは、次なる目標に向かつて練習あるのみです。(文中敬称略)

『さとうきび畑』

山崎児童合唱団

塚田 美紀

「ざわわ〜ざわわ〜広いさとうきび畑
は〜」で始まるこの曲に私が出会ったのは子どもの頃のNHKの「みんなの歌」でした。子どもの私は沖縄が太平洋戦争の激戦地だったことも知らず、耳に心地良い、この「ざわわ〜」のフレーズを口ずさんでいました。三年前にこの曲を歌う機会が与えられました。その時には、沖縄戦の悲劇や沖縄の青い海、そして曲の題名になっている『さとうきび畑』を自分なりに勉強し、解釈して歌い、自分でも満足いく歌が歌えたと思っていました。私はその翌日、前から楽しみにしていた沖縄へ家族旅行に出かけました。子供が体調不良でしたので一日目の予定の海水浴を南部への観光に変更しました。南部に行くにつれ右手に海、左手にさとうきび畑が広がってきました。けれど行つても行つてもその風景は変わりません。山もなくただゆるやかなゆるやかな地形が続いていました。子供たちにはとても退屈だったようですが、ひめゆりの平和祈念館に足を運びました。たくさんの手記の一つ一つをていねいに読み、あらためてその悲劇に愕然としていました。暗

い気持ちで資料館を一步出ると南国花々が咲きみだれ、立っているだけで全身から汗が噴き出し、空を見上げると、ぬけるような青空でした。何とも言えない気持ちで車を走らせると、やはり右手に青い海、左手にさとうきび畑。鉄砲の玉や爆弾をさえぎるものがないやみなゆるやかな丘が広がっていました。私が昨日自分で満足して歌った『さとうきび畑』って何だったのか。何も知らずに歌ったことに恥ずかしささえ感じました。

山崎植物同好会の活動について

山崎植物同好会 久宗丑雄

平成十三年度観察会実施場所 月日

第一百三十二回 二月十七日 文化会館

第二百三十三回 四月二十日 小茅野

第二百三十四回 五月十三日 但馬高原

第二百三十五回 六月十日 岩上神社

第二百三十六回 七月八日 一宮町千町

第二百三十七回 八月十二日 瑞穂寺

第二百三十八回 九月九日 赤穂・室津海岸

第二百三十九回 十月十四日 波賀城

第二百四十回 十一月十一日 安富町賀茂神社

自然に親しみ自然を愛する同好の方々の集まりが、山崎植物同好会です。昭和六十年八月に第一回を南光町の瑞穂寺で植物観察会を実施してより十七年間継続し、今年の十月の安志の賀茂神社での観察会が百四十回目の植物観察会となりました。

植物観察会は、毎月一回宍粟郡内各地の音水国有林、岩上神社、一宮の伊和神社、瑞穂寺、千種の三室山等で実施しています。

会員も山崎町内外の方々を中心の大坂市、神戸市、姫路市、龍野市、新宮町等と遠方の方が参加され、会員数も百五十名となり、毎回四、五十名の方が参加され、四月のカタクリの花観察会は七、八十名の会員が参加されました。

毎回の観察会は午前八時半に山崎小学校前に集まり、自家用車二十台程に分乗し観察地へ出発します。

ここ数年来、毎年一回は観光バスで観察会を実施しています。鳥取の大山のブナ林の観察、六甲山頂の高山植物園の観察、伊吹山の山頂のお花畑の観察会は、観光バス二台で百名の会員が参加されました。平成十三年度五月の観察会は、但馬高原植物園で実施しました。下の写真がその時のものです。



本正理先生、会の運営について指導助言してください。お力であること、会員一同感謝していることを明記します。

茶華道雜感

山崎茶華道協会

山下好子

わが山崎町は、城下町の名残りで、昔から文化的な習い事が盛んでした。

戦後、いち早く、母親ゆずりと思われる和服を着て、茶華道のお稽古に通われる娘さん達の姿が見えはじめると、「本当に戦争が終ったのだなあ。」と実感できたものです。

山崎茶華道協会は、四月の総会に始まって、六月のさつき祭り協賛茶会で華をそえ、秋の観月チャリティー茶会では、さやかな寄付を続けてきました。

文化祭では、日頃の研修の成果を発表。

年一回の研修会では、平素、それぞれの場で修練を積んでいる郡内の会員の資質、親睦、結束を高めています。

このようにして、創立後三十三年を迎えたのも、地域の皆様方のご理解、ご協力のたまものと感謝しています。

終戦後、欧米文化に憧れすぎて、伝統的文化が軽視されたかに見えましたが、経済的発展と共に見直されるようになりました。しかし最近は、それぞれの伝統的格式を重んじるあまり、周囲から少し

近寄り難く思われているようにも見えます。

生活様式の洋風化、多様化に加えて、自然破壊による花材の変化等によって、

茶道では椅子生活に即した立札が普及し、華道では各流派とも洋花を本数少なくて風情を出す工夫がなされていますが、何年も修練を重ねる風潮が薄れて来て、社会的役割を終えられた方々が楽しんでおられるのは、意義ある事です。

「閑座して松風を聴く」

忙しい日常生活の中に「しーん」と湯の沸く音(松風という)を、心静かに聴く一時を持つ事は、この潤いの枯渴した時代なればこそ必要だと思いません。

そこで早速、茶園で抹茶を求め、戸棚の中から茶碗を見立て、一服ためされれるのもよいでしょう。傍らには一輪の野の花がほぼえんでいます。

花はいじらなくとも花自身が美しいのです。世界各所で自然発生したお茶の各種には、同じカフェインが含まれ、心地よい刺激と和みをもたらします。

茶道、華道と力みすぎず、花の美しさを愛し、一杯のお茶をいただけるしあわせを感じる時、この充足感は私個人だけのものではなく、家庭へ、地域へと広がって行き、文化の香り高い山崎町、宍粟郡を築いて行くことでしょう。それが私達の夢であり、誇りでもあるのです。

河本敏夫先生を輓す

山崎詩舞道連盟 小川登

元通産大臣、経済企画庁長官、自由民主党政務調査会長・河本敏夫先生の葬儀が、昨年七月八日、小泉純一郎総理大臣を葬儀委員長として執り行われました。

式には渡辺恒三副議長、海部俊樹元総理、森山眞弓法務大臣、山崎拓自民党幹事長、貝原俊民知事等、多数の国会議員、地元市町長等六、〇〇〇人余が参列して故人との別れを惜みました。

天皇陛下からは、正三位、勲一等旭日大綬章が授けられました。播州路はもとより兵庫県としても最高の勲位であり、古今未曾有の栄誉であります。

故人は故郷の為には、就職の斡旋から事業の振興等、事細かに世話をなさいましたが、国政レベルでの地元への貢献には、次のようなものがあります。

- 1、新幹線相生駅の設置
- 2、峰山レクレイションセンターの開業
- 3、中小企業大学学校の開校
- 4、智頭線の開業、山陽自動車道、新宮IC近く設置、中国道山崎IC、葛根ICの設置等々である。

次に「河本先生を輓す」漢詩を掲載します。



昭和57年 自民党総裁選挙に二度目の挑戦

「花（華）」

播磨さつき会

田 口 實



つきはツツジ科のツツジ属に属する常緑のツツジの一種で園芸用として他の多くのツツジに比べ品種の改良が目覚しい花と言えるでしょう。

草木の花、華道や武道人生の花、祝儀お札など花（華）とは美しく、華やかで晴ればれとした事柄に使われる花（華）、象徴的な意味をもたせる花言葉等々あるなか、町花に因んで草木の花について雑感を述べさせていただきます。

俗に言う花とは、種子を生ずる物、草木の花、植物の茎、枝の先に時を定めて開く花、多くはきれいな色といい匂いをもち、他と識別されるもので萼（ガク）、花冠、雄しへ雌しへからなる生殖器官で、つぼんだあとに実のなるものが多い。日本ではサクラの花が代表とされていますが、古くはウメの花を単に花と指されていたこともあるようです。

いずれにいたしましても、花（華）とは美しくて、いろ、つやがよく、立派にひかりかがやくものと言えるでしょう。私達の町を代表する町花さつきについては各ご家庭において数鉢程度は皆さんお持ちのことと思いますが、素はといえば日本にはさまざまな野生のツツジがあり、園芸品種も数多くあって、これらさ

かたじろ）という品種で雪白地に薄青色をおびた色で花弁肉厚く、花容正しい一重大輪、花は気品高く、樹勢強健で枝梢の出は密で盆栽作りの名木が多く、晚秋の観賞も美しいといわれております。

昭和四十三年（一九六八）に町民多くの方々の人気投票によりさつき（博多白）が選定され、町花として制定されたことはご承知のとおりであります。

爾来、町民の誰からも愛され栽培が普及されて来ましたが昨今の現状は、時代の変遷に伴うライフスタイルの変化により盆栽を愛培する余裕すらもない現在社会において栽培者の激減のなか播磨さつき会、JA花木部会々員によりこれが普及と生産技術の向上を図るべく懸命に努めておるところであり、町花であるが故、これを滅することはできません。

毎年開催される「さつき祭」についてのご叱正、ご意見、栽培についてのお尋ね等々頂戴できますれば幸いに存じます。（事務局 役場商工林業課です）

離れて物を見る

邦楽邦舞研究会

石野和雄

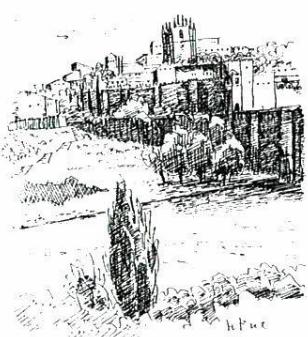
何事によらず間近で物を見ると、なる程細かいところまでよく見えるものです。が、もっとよく見える位置がある。それは別の場所から離れて眺めてみると、今まで部分的にしか知らなかったことが、もっと全体的に分るようになります。

自分達の芸のことについても同じことだと思います。機会ある毎に他所へ出て

みて、自ら反省し、勉強しなければ井の中の蛙と同じです。大海も知らず進歩もありませんといつても、言うは易く実行はむずかしいです。だがその気持ちは持つておらないと駄目だと思います。富士山でも山道を登って行くとき、足元だけ見ていると、黒い溶岩だらけなのに遠くから見ると、日本一の美しい山として眺めることができます。尺八の音も近くで聴くより遠音の方が良きこえるものです。同じ音を聞いて人はそれぞれの個性があるので感じ方は違うと思われますが、私達は邦楽や邦舞を愛する者の集まりで、日本古来の伝統芸能を継承し、後世に伝えてゆき度く地味な活動をしております。古典的なものは、何でも古く

さいと敬遠され勝ちですが、新しければすべて何でも良いとは限りません。古いものの基礎があってこそ、その上に新しいものが構築されるのです。だからこそ基礎が大切なのです。又継続は宝なりとか申しますが、何事も一つのことに集中して年をとっても夢を持ち、自分の趣味を一生続けると大きな心の糧となるでしょう。中々続けると云うことは大変なことです。が、一日一日と積み上げて、千里の道も一步からの心得で一日の変化は分からずとも何年もすると宝物になります。

趣味のあることが、どれ程人生に潤いを与えてくれることか計り知れません。そして多くの同好の人達と一緒に語ることが又楽しい限りです。



高齢化社会を 思うとき

昭和会
平松幹司

昭和会一桁といえば老人であるが誰も老人とは思っていない。先般も老人福祉について例会があつた。講師は、昭和会の会員の皆さんたちは全員温かい家庭の中で老後を過す事を確信しておられることでしょう。しかし今後の超高齢化社会を迎える時代をどのようにみきわめ、生活の場をとらえなければならぬかと考へる時、厳しいものがあるのが現実ですと話された。実例として介護の現場のなかを見つめてみるとその中身は長寿と介護をプラスすると大変な労力が求められる。実際介護をされてきた方々の話を総合すると多種多様である。即ち専門知識が必要であり家庭生活のなかに取り入れることは簡単にいかないことが多いのである。

そこで厚生労働省では新ゴーランドプランのなかで新型特別養護老人ホーム（全室個室、ユニット化）について施設整備の考え方を発表した。その内訳は特別養護老人ホームにおける四人部屋主体の居住環境を抜本的に改善し、入居者の尊厳

を重視したケアを実現するために全個室として整備することとし、自立した日常生活を支援するため質の高いサービスを提供するよう求められている。

そこで私たちこの穴粟山の国、田舎の生活環境で育ち暮らしてきた者はみな施設利用については考えていないと思う。しかし今度やまさきの福祉十一月号No.一六〇によると

「一人暮らし高齢者四二〇人を対象に調査されている。」

その調査によると八パーセントの方が施設利用を希望しており、八十八パーセントの方が現在の生活に満足されている（八十八パーセントのうち、子や孫と一緒に居したい人は約三十六パーセント）。ただこの調査のなかで心配することは病気のときの介護はだれがの答えのなか約七〇パーセントに近い人が別居中の子供と希望され眞の介護が懸念される。

十一月十日神戸新聞に介護休暇参議院通過の記事を見て介護の時代と痛感する。私たちはもとと老人福祉について知識を養いあたたかい家庭環境のなかでの老後を求めていきたいと思います。

又あい反する面での対策も考慮しなければなりません。官民一体となって環境の整備に取組むことを希望するものがあります。

錦鯉に魅せられて

新潮会

衣笠弘一郎

誰にでも錦鯉を飼育し楽しめることを知つてもらい、一人でも仲間が増えることを願つて稚拙ながら筆をとりました。私の錦鯉との出会いは、二十数年前友人に誘われて岡山市で開かれた品評会に行きました。こんなにしばらく美しく美しいものが世の中にいるのか、その驚きと同時に欲しいなー、以来錦鯉に魅せられて今日に至っています。

锦鯉は高価なものという先入観がある

ようですが安価なものでも充分鑑賞に堪え飼育次第で逸品に仕上げることもできます。私は友人の協力により稚魚の養殖を始めてもう十数年、奥の深さ難しさを嘆みしめながら、今年こそは逸品をと夢を追い求めています。ぜひ品定めご批評を頂ければ幸いです。

全国の愛好者で全日本愛鱗会がつくられ会員には情報、写真満載の月刊誌が配布され紙上でも楽しめます。また郡内でも品評会や研修旅行など仲間との交流は行われています。今日では日本人が作り上げた最高の芸術品として海外でも高く評価され世界各国で親しまれています。

今年の夏は猛暑が長く続き夏バテされた方もおられるのではないか。食水も同様に夏バテします。水が夏バテつゝそんな馬鹿な、実際に水を使っている食

山崎町の史跡めぐり

山崎郷土研究会

岸本正理

郷土研究会が編集しております「山崎町の史跡めぐり」は、史跡の石碑を建立した度に簡単な解説を加え写真と共に紹介したプリントです。平成五年以降に建立されたものについて紹介しましょう。

一、鹿澤城本丸跡 平成五年十月建立
最も大きいもので、高さは、四・五メートルある。裏面に歴代の城主が刻まれてある。山崎町と郷土研究会が合同で出資したものである。

二、浜御殿 平成七年一月建立
十二三波に本多の殿様の別邸があった。夏は避暑に来られ、水練や水馬の稽古を御覽になつた所である。

三、鹿澤城搦手門 平成七年七月建立
搦手門は、鹿澤城の裏門の入口となつていた所で山崎小学校の体育館入口の左脇にある。

四、土橋御門跡 平成九年九月建立
山崎地区西町の前野門前屋酒舗より南約三百メートルに「院の馬場口」の惣門（鶴木御門）があつた。城下の村人は、この門をくぐり町へ買物に行つた。

以上八基の石碑を紹介したが、町民の皆様にも是非一度石碑めぐりをしていただきたいと思います。

五、密築の宮 平成九年九月建立

河東地区出石にあるひちりき神社は、伊和神社の遙拝所であつて昔神功皇后が朝鮮出兵のみぎり、伊和神社に参拝され

たとき、ここより奥は道がけわしくて通行困難のため、ここで遙拝された。その時「ひちりき」を忘れ心を痛めていると社の中より「ひちりき」の音がして、無事に祭典を勤めることができたので、

**スーザン歌舞伎
「諸葛孔明」について**

山崎町合唱連盟

藤井七代

孔明は「鞠躬尽瘁死而後已」疲れるまで他人に尽くし、死して後、自分の事をする。生涯無私無欲、主君国家に夢を托しそれに喜びを見出す宰相でした。今回のテーマは「夢見る力」高い理想を掲げ常に前向きに生き究極、平和と愛への夢を追い続ける人物像となっています。孔明の知恵、人徳をしのばせる有名な逸話ショットも多く

「ひちりき」神社と言われている。

六、史跡尼ヶ端（鼻） 平成十年十月

最上山展望台の所に立っているこの史跡碑は、尼子氏が播州を攻めたとき物見櫓を設け宇野勢を監視していた所である。

七、段の観音寺 平成十一年十月建立

本尊は、十一面觀音。隣接地の春安に

円明院という寺があり、本多家の祈祷所であった。

八、表御門 平成十三年八月建立

山崎小学校校門左脇に設置、本多家の表御門のあつた所で、檜を立てたまま通

ることが出来るほど高さがあった。幕末の頃遠藤源介といふ画家の筆による写生図が残っていて当時の御門の立派な様子を知ることが出来る。

三国志は十四世紀、羅貫中の作『三国演義』に基づき再話脚色されたものです。『三国演義』は七割史実、三割フィクションとされる中国の娯楽長編歴史小説です。三世紀末、晉の陳寿編纂による中國公式歴史書『三国志』が今回の『三国演義』を含め後世多く派生したすべての三国志の原典となります。

魏志には東夷伝倭人条に「魏志倭人伝」として日本古代史に関する最古の資料。邪馬台国の女王卑弥呼の名が記されています。

諸葛孔明は蜀の劉備により、三顧の礼をもつて迎えられ才智溢れる策を用いて、魏、蜀、吳の戦いの局面を切り開いた宰相として広く三国志ファンに知られ一千年以上も中国民衆は知恵の化身と語りつぎ神格化されてきました。

参考 新三国志II孔明篇 カタログ

陳舜臣「三国志と中国対話集」

ギリシャに乾盃

山崎美術協会 福岡久藏



イタリアのシチリア島などで、紀元前に建てられたという神殿をいくつか見ていました。しかし、ギリシアのアクロボリスの丘に建つパルテノン神殿は、他所にある神殿とは規模が違い、それはそれは壮大で美しく、乳白色の気品にみち満ちていました。

あくる朝早く外に出てみるとアクロボリスの丘が眼の前にあり、パルテノン神殿は朝日を受け銀色に輝いています。歩いてでも行けるように思えたので、もう一度一人で行くことにしました。歩き始めると工事の為、道路が遮断され迂回をしなければなりません。迂回路を通っていても行止まりになつたりで、丘からどんどん遠ざかってしまうようになります。どこかに抜け道があつたのを見過ごしたのではないかと一度、三度と引き返したりしていました。

すると、工事の打合せでもされていたのでしょう、その中の一人の方がこちらに近づき話し掛けて下さるのですが、勿論言葉は通じません。身振り、手振りと片言混じりで話していましたら、時間が

掛かるので、二人、三人と寄つてこられ、持ち合せの紙に地図を書いて下さいました。「ありがとう、ありがとう」を繰り返えし、地図を片手に神殿にたどり着くことができました。

昨日は観光バスでの見学でしたので、何事もなく神殿に行けたのですが、今日は本当に一苦労しました。

今ギリシャは二千四年のオリンピックに向け道路の整備や施設づくりで、あちらでもこちらでも工事をやっているというお話でした。特に中心のアテネの工事は予定より二年は遅れているそうです。日本なら大変なことで、氣ぜわしく、時を惜しんで突貫工事をやっていることでしょう。でも、ここギリシャでは一介の旅人には五人も六人も寄つて来て道を教えるといふ温かさがあり、親しみのもてる人達ばかりでした。なんとなくおだやかでゆつたりとしていて悠久の時に浸るようでした。

パルテノン神殿を近くに見たり、遠くに見たりしながらスケッチをしました。いつもなら、ハイ一枚描いた、二枚描いたと、まるで何物かに追われているように色紙にスケッチするのですが、今日だけは急ぐこともなく、のんびりゆっくり描くことができました。ギリシャに乾盃。

山崎町文化協会には、幅広い多くの文化団体の皆様が加入されており、誠によろこばしい事と存じます。

新しい地域のエンターテイメントを日

標に発足した播州山崎太鼓も、お蔭様で約七年を経過いたしまして、次なるステップに向けての修練を重ねております。

私は太鼓は打ちませんが、運営面で微力ながら関与してまいりました。

「人間が精神のはたらきによつくりだされたもの」と言う文化の定義も複雑に拡大して変化しています。

文化の香り高い書画や文学もあれば伝統芸能及び音楽や舞踊の文化があります。又、私共生業の飲食業もお酒の文化・食の文化に携わっていると思われます。

若者の文化観も大きく様変わりして来ていますが、音楽に対しての文化は益々盛んになっています。

この地域にも、二十歳代の様々なジャンルのアマチュアバンドが多くあります。茶髪や金髪に鼻ピアスのロックバンドもありますが、彼らは一生懸命にそれぞれの音楽に傾倒して夢と情熱をもつて日々練習に励んでいます。

しかしながら、太鼓の場合もそうですが何分にも大きな音がするので、練習場の確保に苦労している様子です。

私は、それぞれのバンドが練習の成果等を発表出来るように、ライヴステージの場所にお店を提供しております。

騒音対策に苦慮しながら、三年間で九つのバンドが十数回のライヴを実施しております。

何の音響・照明設備もなく都会のライブハウスのようににはまいませんが、それなりの雰囲気にて観客の皆さんに好評を得ています。

地域の若者の中にも目標を持つて音楽の文化を目指している数多くの人達がいる事を、皆様に知つていただきと共に、今後の活動にご理解とご支援をお願い



私の文化活動

播州山崎太鼓

久 保 洋

申し上げます。

山崎町文化協会にも若者の参加出来る

イベントの企画や文化を育成する事業が出来る様希望いたします。

以上が、私なりに出来る文化活動と思われる様からも続けて行こうと存じます。

囲碁のすすめ

山崎囲碁同好会

松 本

明

若年の頃に見よう見まねで覚えて、年に亘り楽しんできた囲碁が、第一線を退き、余暇に恵まれてきたこの年頃になって、殊更、よくぞ覚えていたことと、その念を強く思う今日この頃です。

囲碁は、日本特有の娛樂的競技と思われがちですが、今では、世界中に浸透していく、毎年、世界選手権戦が行われ、プロ棋士を含めた日本選手でも優勝するのは、簡単ではないところまでっている。韓国等では、小学生の必修課目に取り入れられて、広範囲に若年層からの逸材の掘り起こしを計っているとか、日本でもこうした試みは是非必要と考えられるのだが……。私達が今思っていることは、その様な大層なことではなく、今の日本では、色々と楽しむことが多過ぎて、若い人達から余り興味をもたれない囲碁が、どんなに楽しいものであるかを知つてもらって、多くの老若男女に生涯を通じて楽しんで頂きたいと云うことなのです。過日、新聞紙上で、幼稚園児達が楽しんでいる将棋大会の様子が報じられましたが、碁についてもこの様な試みが、

出来ないものだろか……。

ご存知の様に、囲碁は、十九路×十九

路の、方眼状の盤上で相手よりも广い「地所」を獲り合うゲームです。その目的を達するために大きな構想を画いたり、石の形、姿、定石、急所、手筋等の秘術を盡して優劣を競うのですが、どうしても結果が出るまでに長くかったり、むづかしい場面が出てきたり(当事者はそれが楽しい)、するものが、部外者には、近づき難さを感じさせるのではないかと思われる。そこで、短時間で結果が出る九路×九路盤を使用することで初心者にも覚えやすく、内容的にも変化も多く早く楽しめる様になれるのです。

そこで大切なことは、全く碁を知らない人達に、囲碁に接してもらう場をどうすれば造れるか、と云うことです。

それには、我々既存の囲碁愛好者全ての協力は勿論のことですが、その上に学校とか行政等の、支援が得られるなら大きな力になること、必定でしょう。

尚その上に、最も必要なことは、「始めて見たい」と意志表示することなのです。

事務局だより

△ミニニアム・やまさき文化展
やまさきミニニアム実行委員会・山崎

町文化協会・山崎美術協会・山崎俳句協会・山崎歌人協会主催の「ミニニアムやまさき文化展」が平成十三年一月六日から五月十七日まで、サンホールやまさきエントランスホールで開かれた。

会場には美術、俳句、歌人各協会の人たちの丹精込めた作品が、洋画、水墨画、日本画、陶芸、書、俳句、短歌の各部門別に順次、展示された。

数は約八百点。町内の風景を描いたり、郷土を題材にした作品も多く、鑑賞者を楽しませた。

△やまさき秋のふれあい文化祭

山崎町と同町文化協会、山崎文化会館、同町内の芸能関係団体などによって構成された実行委員会(壇阪壽会長)主催の「第十一回 やまさき秋のふれあい文化祭」が“文化の日”的平成十三年十一月三日、サンホールやまさき大ホールで開かれた。

同町内の二十四芸能関係団体の約四百人が出演、吹奏楽、合唱、バレエ、器楽演奏、英語劇、邦樂、舞踊、詩吟、扇舞、太鼓、剣舞、民謡、盆踊り、獅子舞、民踊など、日ごろの練習の成果を発表した。バラエティーに富んだ、いずれも見事な演技とあって、会場いっぱいの観客を大いに楽しませた。

フィナーレは、ふるさと民踊同好会の総勢三十人が、大正、昭和に活躍した天才詩人といわれる野口雨情さん作詩、杵屋勝太佐作曲、坂東寿々代さん振り付け

による伝統の「篠の丸の四季」の踊りを華麗に披露。会場から盛んな拍手がわいた。

同民踊同好会は、平成十三年七月、同町内の舞踊団体の人たちが山崎防災センターに集まり、町内に伝わる「山崎小唄」「玄蕃音頭」など民踊が、伝統的に踊り継がれるよう努力したいなどと結成された。今後の活躍が期待されている。

編集後記

編集長 荒木俊介

「やまさき文化」第二十一号を発刊する運びとなりました。

先ず初めに各団体より貴重なボランティア活動の記事や催しの写真、或は素晴らしい随想などの原稿をお寄せ頂き、編集委員一同心より厚くお礼申し上げます。

本号の特別寄稿には、鹿沢出身の稻村一郎氏と山崎出身の洋画家松井叔生氏の二人にお願いしました。お忙しい中にも拘らず第一線に於ける華々しい活躍の模様をお寄せ頂き有難うございました。

今回の浅田耕三氏の評伝では、山崎小唄などの作詞で山崎町と馴染の深い詩人野口雨情による山崎小唄誕生について今まで一般に知られていないかった安田青風氏との個人的な交遊の模様が詳細に語られていて、大変興味深く読ませて頂きました。

終りになりましたが、表紙並びに挿絵には益々華麗なタッチの福岡久藏氏にお願いしました。誌上をかりて厚くお礼申しあげます。

以上

飛石機械産業からのお願い



人が人として幸せになれる処方箋は何なのか、そのようなことを考え「幸福の泉」を生活信条に、自作自演で30数年を歩いて参りました。昭和46年、会社発足時に経営理念と改め、お客様のご信頼にお答えする為に、人としての使命感に燃え、それを無限のエネルギーとして全社揚げて取組んであります。

当社では、企業は社会の公器でなければと申し上げており、流通の世界の中で生活文化の向上を願い、多目的に活躍しておりますので、尚一層のご支援をお願い申し上げます。

TOBIISHI 飛石機械産業株式会社
TOBIISHI KIKAI SANGYO CO., LTD.
〒670-2125 兵庫県宍粟市山崎町山崎181 TEL(0790)62-1700
飛石機械産業販売部 TEL(0790)62-1704 FAX(0790)62-1705
飛石機械産業設計部 TEL(0790)62-3610 FAX(0790)62-3611
クリエイティブ部 TEL(0790)62-3612 FAX(0790)62-3613

◆最新型カラー現像機導入◆

カラープリント・スピード仕上げ
良い品を・安く・安心して買える店



コアニアカメラ Specialty Camera Shop

宍粟郡山崎町東鹿沢26-3 本店 TEL(0790)62-2089
咲ランド店 TEL(0790)63-0533

料理旅館・割烹

創業
文久元年

菊水

兵庫県宍粟郡山崎町山崎287

TEL (0790) 62-1119(代)

幸

せへの旅立ちに――。

ふじむら貸衣裳

宍粟郡山崎町山崎181 TEL(0790) 62-0052

あらゆる印刷の企画から製品まで

株式会社 **支林館印刷所**

宍粟郡山崎町山崎53

TEL (0790) 62-1147(代)

FAX (0790) 62-0081

にしんのeバンキング
テレホン、モバイル、インターネット
とても便利になりました。

にしんの住宅ローン
あなたのプランに合わせて
ご相談下さい。



豊かな街づくりをお手伝いする

西兵庫信用金庫

TEL 0790-62-2020(代)

本
醸
造
**龍
神**



純米酒
**さつ
き
一
献
き**

山陽盃酒造(株) TEL (0790) 62-1010(代)

安全で快適な生活をお届けする

JOMO 株式会社ジャパンエナジー 特約店

JOMO オンショウ

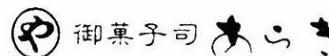
本社 兵庫県宍粟郡山崎町中井96 TEL (0790) 63-1234(代)
(0790) 62-4321(代)



創業明治28年・さつき本舗

四季の菓子

御進物・おみやげ・お茶うけに、四季折々の
真心こめた手づくりの御菓子を



本店：播磨山崎町さつき通り（電）62-0170
山田店：播磨山崎町山田（電）62-0160



OA機器・事務用品・スチール家具
学校設備品・理化学機器・楽器

office service

イトーオフィスサービス 株式会社

代表取締役 伊藤和久

山崎町中庄瀬117-12 TEL (0790) 62-0126